

Heroldo de HEL

N-ro 108

Junio 2006

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

de HOŠIDA Acuŝi

〒053-0844 苫小牧市

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

宮の森町2丁目18-18

053-0844 JAPANIO

星田 淳 方

TEL-FAKS:0144-74-2539

Retadreso: czw06615@nifty.ne.jp

hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

Postgirkonto (郵便振替) : 2700-6-17075

*Sekretario: SATOO Eiji

*事務局: 佐藤英治

TEL(poŝ):090-2054-8751

TEL-FAKS:0144-58-2174

Retadreso : zamenhof@ka2.so-net.ne.jp

*TTT-ejo : <http://www5d.biglobe.ne.jp/hel/jp/index-j.htm>

[Enhavo/目次]

- 表紙、Enhavo/目次 P. 1
- Maja Kunlogado 2006 de HEL
5月合宿、恒例の おたる自然の村・おこばち山荘/HOŠIDA Acuŝi
- Bildrakonto "Reviviĝu, la arbaro de Erimo!" tradukata(2) P. 3
絵本「よみがえれ、えりもの森」Esp. 訳(2)/HOŠIDA Acuŝi
- Pri Praga Manifesto en la aina P. 6
プラハ宣言アイヌ語訳について/横山裕之(YOKOYAMA Hiroyuki)
- Kian Puŝkin-on oni scias en Japanio? P. 11
日本でプーシキンはどう理解されているか/HOŠIDA Acuŝi
- Danke ricevitaj - 受領郵便物 - (星田淳) P. 14
- "homon kun altaj idealoj" - Funebra saluto el Hispanio P. 15
「高い理想の人」-カワハラさんへスペインから弔辞/HOŠIDA Acuŝi
- [第4回委員会報告] Protokolo de la 3-a Komitato Kunsido
- [編集後記/Redaktanto parolas ...] P. 16

===== Maja Kunlogado 2006 de HEL

5月合宿、恒例の おたる自然の村・おこばち山荘

HOŠIDA Acuŝi

天候不順で、野外行動の時間は短く、ほかの行事とぶつかってEPAの参加者が来れなくなるなど、活気を欠いたものになりそう、と心配された。しかし学習内容はかえって集中できたかもしれない。

第1日: 5月27日(土)

*13:25 Saluto de S-ro Satō Huzio

*13:28 Saluto de S-ro Cubaki:

Mi revenis al Esperantujo pro kontakto per interreto komencita de Usono por hegemonio de anglalingva koncentriigo laŭŝajne. Sed nun, kun la kresko de EU, la hegemonio estas ne nur ĉe la angla.

* Daŭris prelego pri "Interesaj TTT-ejoj - Kiaj? kaj kiel uzu?"

「エスペラントとインターネット：おもしろサイトやその使い方」

①教育・学習： lernu. net

読み物、音声表示、受験ができる。文通希望も来る。

②インターネットラジオ

③Gangalo. com ニュース、インターネット・テレビ

④educado. net,

⑤Wikipedia - Vikipedio

tuja libro の意味 (ハワイ語) といわれる。インターネット上の百科事典。使える言語は 英、日、スペイン、デンマーク、ポルトガル。Vikipedio はエスペラント版。5万語程入っている。自分で作って行ける。

<http://eo.wikipedia.org>

⑥libera folio: Gotenburga UK のとき "UEA の内幕" のチラシを出して締め出されたこともあったが、今 UEAとの関係は好転している。

- Komencanto ロシア: nun dormas.

- Aziaj junuloj (日・中・韓・ベトナム青年グループ) 発行、月刊

*14:30 ~16:30 初級、中級に分かれて学習

*16:30 ~18:00 Ekskurso, Interparoloj (散歩、会話)

天候悪化の予報なので第2日の予定を変更して実施。多くの家族連れや若い人たちが炊事に忙しいバンガロー・テント群を通過、小樽のまちを見下ろす台地、森を歩く。竹の子 (実は根曲がり竹=チシマザサ? :kurila saso の芽) も細いが、出ていた。夕食、Bankedo, 入浴、就寝

第2日: 5月28日 (日)

* 8:00 ~10:30 予報通り朝から雨。初級・中級に分かれ学習。各クラスの学習はつぎの通り。

[入門クラス報告/佐藤英治]

参加者は5名。参加者の皆さんは日頃読み書き中心の学習が中心と思い、今回も前回の合宿のように聞き取りに重点をおいた。教材は「Liza kaj Paulo」を使い、会話の聞き取りと口まねをゲームをするようなやりかたで集中的に行った。最後はエスペラントでのポップ音楽を紹介した。わりと参加者には喜んでもらえたと思う。

[中級クラス報告/星田 淳]

Heroldo de HELの前号 (N-ro 107) に出た、絵本「よみがえれ、えりもの森」のエスペラント訳。前号に出た訳文を検討、手直しの上、絵本の後半を出席者5人で (叩き台の) 訳文を検討していく。このやり方で行くと、結構どんどん進む。ここでできたのは絵本の22~31頁分。

*10:30 ~11:30 「歌の練習」、これは実は発音練習。前にも歌ったことのある "Brilas, brilas, eta stel'", "Donu al ni pacon", "Ho, kiel bele estas" など。この次には新しい歌、うたいたいーと思う曲など、どうですか。

*12:00 解散! 車に分乗して下山。参加者は計 11 人でした。

5月27~28日の合宿(小樽)の中級クラスはこの絵本のエスペラント訳に取り組んだ。参加者は S-roj 椿、後藤、児玉、切替、星田の5名。以下にその試訳を示します。これにより、まだ試訳が発表されていないのは7~21頁になるので、やってみようとする方(Volontuloj)は、この範囲をどうぞ。

22頁

海の底にも、ながいあいだにつもった砂がたまっていた。

浜辺で、ひとりのじいさんがつぶやいた。

「いつか、流氷がおしよせてくる。海の底をそうじしてくれるぞ」

じいさんは、毎日、海をながめていた。

流氷が、太平洋のえりもの海までくるのは、数十年にいちど。それがいつなのか、だれにもわからない。

p. 22

Sur marfundo amasiĝadis sablo dum longa tempo.

Unu maljunulo murmuris sur la marbordo

"Iam venos flosanta glacio ĉi tien kaj forpurigos la marfundon".

Li rigardadis la maron ĉiutage.

Flosanta glacio atingas Erimon nur unu fojon en ĉiu kelkdek jaroj. Neniu scias, kiam ĝi venos.

24頁

ある冬の夜明け。

海がぎしぎしと音を立てていた。

常雄さんたちは、浜辺にかけつけた。

えりもの海を、白い氷が埋めつくしていた。四十年ぶりにやってきた流氷だった。

白い氷のかたまりは、海の底にたまった砂をおしながし、海の底にかくれていた岩をこすった。

じいさんが信じていた、流氷のおおそうじだった。

砂にうもれていた岩が、すがたを

p. 24

En unu vintra tagiĝo

la maro klakis kaj knaris.

Cunco kaj liaj kolegoj alkuris la marbordon.

Blankaj masoj de glacio pene kovris la maron de Erimo. Flosanta glacio venis post kvardek jaroj!

La masoj de glacio forpuŝis la sablon amasiĝintan sur marfundo kaj frotis rokojn en marfundo.

Tio estis la kompleta purigo, kies venon kredadis la maljunulo.

Jen aperis rokoj, kiu estis plene

あらわした。

kovritaj de sablo.

26頁

つぎの年、くろぐろと光る、ふとったコンブがとれた。

やがて、百人浜の森も、すこしずつおおきくなっていった。

ゴーゴーとふきすさぶ風は、むかしもいまもかわらないが、森のめぐみが、海にそそぐようになった。

魚がもどり、コンブの森が生まれた。

p. 26

Sekvan jaron bone kreskintaj laminarioj, freŝnigre brilantaj, rikoltigis.

La arbaro de la bordo Hjakuninhama vastigis iom post iom.

Muĝanta vento ĉiam blovas same kiel pasintajn tagojn, sed favoraĵoj de arbaro nun enfluas en la maron.

Fiŝoj revenis, arbaro de laminarioj naskigis.

29頁

「おれはコンブ漁師だが、半生は山にかけた。漁師だから、海のことだけを考えていればいいんでない。山があれば、海もあるんだ。五十年たって、心からおもう」

常雄さんが、息子や孫におくる言葉だ。

ひでおさんのコンブ舟が、海にでていく。

孫は、六代目のコンブ漁師になるといっている。

p. 29

”Mi estas fiŝisto-laminariisto, sed mi zorgadis pri la arbaro grandan parton de mia vivo. Estas ne sufiĉe, ke fiŝisto nur rigardu la maron. Kiam arbaro ruiniĝas, ankaŭ la maro mortos. Mi komprenas tion post kvindek jaroj!”

Tio estas la vortoj, kiujn donas Cuneo al siaj filo kaj nepo.

Boato de Hideo eliras al la maro.

La nepo diras, ke li estos la sesa-generacia fiŝisto-laminariisto.

31頁

クロマツの森に、カシワの子どもがそだっている。

エゾシカも、やってくる。

えりもの人たちの森づくりは、おわらない。

カシワやミズナラにおおわれた、むかしの森をとりもどすまで、何代

p. 31

Kverkidoj kreskas en la arbaro de nigra piceo.

Ankaŭ jezo-cervoj venas tien.

Ankoraŭ daŭras la laboro de erim'anoj fari arbaron.

Ili plantadas trans generacioj ĝis la reakiro de iama arbaro, kiu kovris

もかけて、木をうえつづける。 | la teron per kverkoj kaj greslarioj.

S-ino Motoki salutas nin!

「よみがえれ、えりもの森」原作者 元木洋子さんからメッセージ

S-ino Motoki, la verkintino de la originala bildrakonto, afable sendis mesag'on al ni, ke ŝi atendas kompletigon de esperanta teksto. (HOŝIDA)

2006 年6 月17日 10:49

星田さま おはようございます。長い間留守にしていたものですから、お返事が遅くなりました。—エスペラント語の「えりも」、とても楽しみです。どうぞよろしく願いいたします。 本木洋子

「よみがえれ、えりもの森」前号(N-ro 107)記載分の訂正

5月合宿中級クラスでは前号に出た分も見直し、次のように訂正しました。検討してください。

4頁：第2行 最後の , ke -->, kiel
第6行 最初の klopodo --> klopodado
第15行 , sl --> . al
下から3行 ontaro --> Montaro
下から2行 naĝas --> flosas

5頁：2行目 strando --> la marbordo

[注] strando は海水浴・日光浴のための行楽地、ここには不適當

第5行~第6行 "dezerto" de Erimo. --> "Dezerto de Erimo".

下から17行目 grizkverkoj --> mongolaj kverkoj

[注] ミズナラの学名: Quercus mongolica var. grosseserrata
grizkverkoj の出典、使用実績は?

下から16行目 la strando --> 削除

下から10行目 en Erimo --> 削除

下から9行目~8行目 次のようにする。

ili hakis arbojn kaj amasigis hejtlignon ĉirkaŭ siaj domoj.

(以上)

Pri Praga Manifesto en la aina

プラハ宣言アイヌ語訳について

横山裕之 (YOKOYAMA Hiroyuki)

[Noto de la redaktanto] S-ro YOKOYAMA klopodas traduki la Manifeston en la ainan lingvon kun helpanto kapabla pri la lingvo. Pro la manko de abstraktaj vortoj kaj terminaro por moderna socio en la aina, oni devas unue malkonstrui tradukotan originan tekston en elementoj, kies ekvivalentoj ekzistas en la aina. Kaj poste oni povas konstrui ainan tekston por redoni originalan koncepton. Tio estas ja interesa eksperimento, kiu pensigas onin pri la fundamentaj signifoj de uzataj vortoj. Jen pretaj estas la partoj de 'antaŭparolo' kaj 4 paragrafoj el la tutaj 7. (HOŠIDA)

プラハ宣言にあるように、エスペラントは、(少数)言語の権利や言語の多様性を支援できるものなので、この宣言を少数言語であるアイヌ語で表現することは、それ自体、価値のあることと私は考えます。

言葉というのは、その存在自体に重みがあると思います。たとえば、プラハ宣言の中の(少数)言語の権利のようなものを訴える場合、日本語やエスペラントでアイヌ語の重要性を訴えることも重要ですが、それ以上にアイヌ語を使ってアイヌ語らしい表現で色々なことを訴えた方がインパクトは大きいと思います。ただし、アイヌ語だけではわかってもらえないと考えられるので、日本語やエスペラントの直訳を載せたり、アイヌ語の単語の下に対応する単語を載せたりして理解してもらおうとよいと思います。

この活動の目的は、エスペランチストの多くの賛同を得たプラハ宣言の意義を、アイヌ語を通じて知ってもらうということと、それに関連してアイヌ語の存在を知ってもらい、アイヌ語普及のための一歩、アイヌ語への関心を持ってもらいたいということです。

アイヌ語訳したものは、2007年に横浜で開催される世界エスペラント大会で公表したり、北海道エスペラント連盟のホームページに載せたり、世界エスペラント協会のライブラリーの登録したりして、世界中のエスペランチストへお知らせたいと思います。

プラハ宣言のアイヌ語訳の試案が、平成18年5月の段階で、下記のとおり7章のうち4章まで出ています。

アイヌ語訳については、アイヌ語新聞「アイヌタイムズ」の編集長である浜田隆史氏の全面的な協力をいただいております。

アイヌ語に馴染むように、(元になった日本語訳)から書き直した日本語をアイヌ語の下に書いています。

この日本語の直訳がアイヌ語になっていると考えてよいと思います。

この書き直した日本語をご覧になって、ご意見、ご感想があれば、

hokkaido_esp_ligo@yahoo.co.jp までご一報ください。
参考にさせていただきます。

(アイヌ語訳)

Puraha or ta ci=ye itak.

- usa mosir un utar ukoytak pa kuni a=kar itak "Esuperanto" makanak an ya ka, eci=nure p ne ruwe ne. -

プラハで私たちが言った言葉

-いろいろな国の人たちが話し合うために作られた言葉「エスペラント」がどのようなものであるか、私たちがあなたたちに知らせるものです-

(元になった日本語訳)

国際語エスペラント運動に関するプラハ宣言

(アイヌ語訳)

oripak turano ne yakka ci=ye ruwe ne.

c=utari anakne, Esuperanto ye utar naa poronno an kuni, usa mosir ta usa okay pe ci=ki oasi hawe tapan na. te ta ci=ye hi usa mosir un seihi or un utar neya kokusaisosiki un utar neya opitta pirkano ci=nure ka ki, te ta ci=ye hi nen poka an ayneno an kuni c=arikiki ka ki kusu ne. rapok ta, usa oka utar c=utari turano arikiki wa un=kore kuni ci=nisuk kusu ne.

恐縮ですが申します。

私たちは、エスペラントを話す人たちがもっと増えるように、いろいろな国でいろいろな事をしようと思うのですよ。私たちは、ここで言うことをいろいろな国の政府の人たちや国際組織の人たち全てにきちんと知らせることもします、ここで言うことが何とかそのままあるように一生懸命働くこともします。一方で、いろいろな人たちが私たちと共に一生懸命働いてくれるように頼むつもりです。

(元になった日本語訳)

私たち、エスペラントの発展のための世界的な運動に加わる者たちは、この宣言をすべての政府、国際組織および良心ある人々に対して送り、ここに表明された目標に向けて私たちが不退転の決意をもって活動し続けることを宣言するとともに、それぞれの組織と個人とが私たちのこの努力に加わるよう呼びかける。

(アイヌ語訳)

Esuperanto anakne, 1887 pa ta a=kar itak ("a=numke easkay kuni itak") ne wa, newaanpe ani usa mosir un utar ukoytak easkay kuni a=ramu itak ne ruwe ne. okake ta, Esuperanto itak ipehe naa poronno pirkano oka wa, tane 1 seki akkari utur ta, usa oka itak ye utar ka usa oka puri kor utar ka, ani etoko tuypa ka somo ki no ukoytak a ruwe ne. Esuperanto ye utar neno irawe hi anakne, tane ne yakka uneno an kuni ci=ramu. nen ne yakka oya itak ani wente ka somo ki no, pirkano ukoytak easkay kunine,

sine itak or ta ci=ki rusuy hi ene oka hi; (newaanpe anakne, inan mosir un itak ne yakka wen kuni ci=ramu, te wano neun tsusingijutsu pirkano an yakka, neun itak epakasnu yakka wen nankor.)

エスペラントは、1887年に作られた言葉（「選ぶことのできる言葉」）であり、それによっていろいろな国の人たちが互いに話し合う事ができるように考えられた言葉です。その後、エスペラントの言葉の意味はもっとたくさん良くなって、もう一世紀以上の間、いろいろな言葉を言う人もいろいろな文化を持つ人も、それによって邪魔されることなく話し合ってきました。エスペラント話者たちがそのように望んだことは、今でも同じだと私たちは思います。誰であっても（自分とは）別の言葉によって害されることなく、良く話し合いができるように、ある言葉において私たちが望むことは以下の通りです；（これは、どの国の言葉であってもいけないと私たちは思います。これからどのように通信技術がよくなって、どのように言葉を教えてもだめでしょう。）

（元になった日本語訳）

エスペラントは、1887年に国際的コミュニケーションのための補助言語案として提唱された後、生命力と表現力に富んだ言語へと速やかな発達を遂げ、すでに一世紀以上にわたって言語と文化の壁を越えて人々を結びつける働きを果たしてきた。エスペラントの使用者たちが目指してきた理想は今なお重要性和現代的意義を失っていない。私たちは公正で効果的な言語秩序のためには以下に述べる原則が必須であると考え、いずれかの民族語を世界語として使用しても、また今後いかに通信技術が進歩し、新しい言語教育法が開発されるにしても、これらの原則を実現することはできないであろう。

（アイヌ語訳）

1. a=utari opitta uneno a=ye easkay kuni p

1. 私たちみんなが同じように言うことができるもの

sine mosir un itak ye kur epirka rapok ta, oya mosir un itak ye kur anak ne itak ponno ka erampewtek hi kusu esirkirap yak wen, pirka itak anakne, a=utari opitta uneno a=ye easkay kuni p ne ruwe ne. Esuperanto nep ka wen hi isam sekor anak somo ci=ye korka, newaanpe or ta iyotta pirka itak ne sekor yaynu=as.

ある国の言葉を言う人がそれで得をする一方、別の国の言葉を言う人がその言葉を全然知らないがために苦勞するならば良くありません。よい言葉とは、私たちみんなが同じように言うことができるものです。エスペラントが何も悪いところがないとは言いませんが、この点においては一番よい言葉であると私たちは考えます。

（元になった日本語訳）

1. 民主性

あるコミュニケーションのしくみが、特定の人々には一生涯の特権を与える一

方で、他の人々にはより低い段階の能力の獲得にさえ多年の努力をつぎ込むよう求めるなら、それは根本において反民主的なものである。エスペラントは、他の言語と同様に、完全ではないが、平等な全世界的コミュニケーションという領域では、どの競合する言語に比べてもはるかにまさっている。

言語の不平等は、国際レベルを含めたあらゆるレベルにおいて、コミュニケーションの不平等を生み出すものであると、私たちは主張する。私たちの運動は民主的なコミュニケーションを目指すものである。

(アイヌ語訳)

2. a=utari opitta uneno a=eraman easkay kuni p

2. 私たちみんなが同じように勉強することができるもの

sine mosir un itak eraman rusuy pe anakne, ne mosir oruspe ka puri ka poronno eraman yak easir pirka. eigo eraman rusuy kur neyakun, Amerika oruspe neya Igrisu oruspe neya pirkanon eraman kuni p ne. rapok ta, Esuperanto sine mosir un itak ka somo ne kusu, neno an oruspe isam.

a=utari opitta uneno a=eraman easkay kuni p ne, sekor yaynu=as. ある国の言葉を勉強したい者は、その国の話も文化もたくさん勉強しないといけません。英語を学びたい人なら、アメリカの話やイギリスの話をきちんと勉強することになります。一方、エスペラントはある国の言葉ではないので、そのような話はありません。

私たちみんなが同じように勉強することができるものである、と私たちは考えます。

(元になった日本語訳)

2. 民族性を超えた教育

民族語はそれぞれ特定の文化・国家と結びついている。例えば、英語を学習する生徒は英語圏の諸国、特にアメリカ合衆国とイギリスの文化・地理・政治について学ぶことになる。それに対してエスペラントを学習する生徒は、国境のない世界について学ぶのであって、そこではどの国も故国と見なされる。

いずれの民族語を用いた教育も特定の世界観に結びついていると、私たちは主張する。私たちの運動は民族性を超えた教育を目指すものである。-----

(アイヌ語訳)

3. isaykano a=eraman easkay kuni p

3. 簡単に勉強することができるもの

oya mosir un itak hokampa p ne ruwe ne. neun a=epakasnu yakka erampewtek utar poronno oka nankor. rapok ta, Esuperanto isayka itak ne kusu, yaykata pirkanon a=eraman easkay pe ne. oya mosir un itak a=epakasnu hi etoko ta, Esuperanto eraman yak pirka sekor ye utar ka oka. Esuperanto isaykano a=eraman easkay kuni p ne sekor yaynu=as.

別の国の言葉は難しいものです。どんなに教わってもわからない人はたくさんいるでしょう。一方、エスペラントは簡単な言葉なので、ひとりできちんと学ぶことができるものです。別の国の言葉を教わる前に、エスペラントを知っていると良いと言う人たちもいます。エスペラントは簡単に勉強することができるものである、と私たちは考えます。

(元になった日本語訳)

3. 教育上の効果

外国語を学習する人の中で、それを習得できる人の割合はごく低い。それに対してエスペラントの習得は独習によっても可能であり、他の言語を学ぶための予備的学習としての効果についてもさまざまな研究報告がある。また、生徒の言語意識を高めるための教科においてエスペラントを中核に位置づけるよう勧める声もある。

民族語の学習は難しく、第二言語の知識があればそれによって益を受けるは多くの学習者にとって常に障害となり続けるであろうと、私たちは主張する。私たちの運動は効果的な言語教育を目指すものである。

(アイヌ語訳)

4. yay-itak tup akkari a=eraman hi

4. 自分の言葉を二つ以上勉強すること

Esuperanto ye utar opitta, neun poka yay-itak tup akkari eraman pe ne ruwe ne. utari ukoytak easkay kuni pakno oya itak eraman pe ne. iki ayne, ne kur pawetok kur ne wa, uwosuwos usa okay pe eraman nankor.

yay-itak tup akkari a=eraman yak pirka p ne. ne hi oro ta Esuperanto anakne iyotta pirka itak ne, sekor yaynu=as.

エスペラントを話す人は全て、どうにかして自分の言葉を二つ以上勉強した者です。その人たちは会話ができるまで別の言葉を勉強した者です。その結果、その人は雄弁な人になって、次々といろいろなことを学ぶでしょう。

自分の言葉を二つ以上勉強すると良いものです。その時にエスペラントは最適な言葉である、と私たちは考えます。

(元になった日本語訳)

4. 多言語性

エスペラントの共同体は、その構成員が例外なく二つ以上の言語を話すという、世界的規模の言語共同体としては数少ない例の一つである。構成員はそれぞれ、少なくとも一つの非母語を会話のできる程度まで学ぶことを自己に課している。多くの場合、このことは複数の言語に対する知識と愛着をもたらし、ひいてはその人の視野をより広くすることにつながっている。

どの言語の話し手にも、その言語の大小を問わず、コミュニケーションが可能な高い水準まで第二言語を習得する現実的な機会が与えられていてしかるべきだと、私たちは主張する。私たちの運動はその機会を提供するものである。

Kian Puŝkin-on oni scias en Japanio?
日本でプーシキンはどう理解されているか

HOSIDA Acusi

Vladivostoka Esperanto-Klubo の S-ro Gennadij ŜLEPČENKO (2000年の北海道大会/小樽 に参加) からの原稿です。

ロシアで出た「日本でのロシア文化紹介の100年」という本からの引用。中山省三郎によるプーシキンの詩(エヴゲーニイ・オネーギン第8章)の訳文を例に出して、「意味は伝わっているだろうが、原文のリズムや韻律は失われている。(翻訳である以上、やむを得ないが)この訳文で日本人はどのようなプーシキン像を描くのだろうか」と述べています。翻訳(特に、詩の)に当たっての永遠の難問ですね。

日時：2006年4月23日 16:34

Estimata s-ano Hoŝida!

Mi sendas al Vi dosieron "Pushkin". Al mi ŝajnas ke ĝi estos interesa por Vi. Gennadij.

En libro 100-jariĝo de rusa kulturo en Japanio, eldonita en Moskvo 1989, mi tralegis fragmenton kiu pensigis min kaj devigis alie konsideri valoron de nov-aperinta traduko de Eŭgeno Onegin en Esperanton.

Jen ĝi estas:

En Japanio oni konas kaj amas Puŝkin-on. Multaj libroj ekde 20-aj jaroj de la pasinta jarcento estas eldonitaj pri la poeto. Kaj la eldono ne finiĝas ĝis nun. Sed kian Puŝkin-on oni scias en Japanio? Jen unu strofo el traduko de Eŭgeno Onegin kiun faris la plej bona poeto-rusisto Nakajama Sjodzaburo.

ここからの14行は中山省三郎による日本語訳。ロシア文字経由のローマ字表記、わかりにくいところがあります。このロシア文学者、<朝日日本人名辞典>によれば、1904(明治37)～1947(昭和22) のこと。古風に感じて当然か。

Gakusjuin-no niva-ni
vatakusi ga nagojaka-ni hana to saki,
sukunde Apurejusu-o jominagara,
Kikero-o jomadzu-ni kurasite ita koro,

haru-no hi-no simpī-no taniai,
sidzima-ni kagajaku midzu-no hotori-ni,
hakutjo-no naku-o kikukoro,
mjudzu ga vatakusi-ni aravarete kita.
Vatakusi-no gakubo va,
nivaka-ni teri haeta. Soko-ni mjudzu
vakajsja-no omoicuki-no kjoen-o hiraki,
ivakenaki mono-no jusisa ja,
varera ga kuni-no tooki mukasi-no
furueru kokoro-no jumenado-o utaidasita.

Jenas esperanta traduko de la strofo: 以下14行はその原文のEsp. 訳

Dum tagoj, kiam pace flegis
disfloron mian la Lice',
mi ŝate Apuleon legis,
sed Ciceronon tute ne,
printempe, en la val' mistera,
kun cigna krio enaera,
ĉe brilaj akvoj, kun fascin',
komencis Muz' viziti min.
Studenta mia ĉel' subite
Lumiĝis: tie mia Muz'
Festenoj lanĉis de amuz',
Prikantis junan gojon sprite,
Legendojn de antikva glor',
Fragilajn songojn de la kor'.

Kiel videblas dum tradukado de la strofo praktike perdiĝas ĝia poezieco: per rimedoj de japana lingvo ne eblas transdoni rusajn rimojn kaj metron. Eĉ filologie ĝusta, preskaŭ ĝisvorta traduko, transformas versaĵojn en prozan parafrazon, t. e. oni rerakontas enhavon de teksto. Tradukisto diras al siaj legantoj: jen pri kiu temo kantis tiu fama fremdlanda poeto - kaj kiel eble ĝuste kaj diligente esprimas tion.

Ne indas kritiki la japanan tradukon, ĉar en ĝi la tradukisto faris, probable, ĉion, kio eblas, demonstrante bonan scion de rusa lingvo kaj

kapablon trovi por rusaj vortoj japanan ekvivalenton. Apartaj frazoj estas tre sukcesaj, sed en la aliajn la tradukisto devis enŝovi vortojn, sen kiuj japana legantaro simple ne komprenus lin. Rezulte Puŝkin-a teksto estas komprenebla por japanaj legantoj. Samtempe en la teksto ŝanĝiĝis naturo - ĝi finiĝis kiel genia rusa versaĵo, sed fariĝis japana parafrazo kun kelkaj ekzotikaj realaĵoj.

Japana legantaro povas ĝui la tradukaĵon (pri kiu mi permesu al mi dubi), povas legi kun intereso por sia utilo, sed dubinde ke en la traduko oni povus kapti kaj kompreni rusajn animojn (rosija-no tamaŝii).

Kiel estas sciata, indo de arta teksto, precipe poezia, estas ĝia superinforma kvalito - bildeca, sona, ritma strukturo, t.e. maniero kompreni realaĵon. Do, japana legantaro siajn vere japanajn vortojn (jamato koto-ba) perceptas per sia aparta maniero, kiu diferencigas de maniero de rusa legantaro. Pri diversa impresiĝo de aludoj, nomoj inter japanoj kaj rusoj eĉ ne temas.

Se por rusaj legantoj komentario al 'Eŭgeno Onegin' konsistigas unu dikan volumon, kaj por usonanoj - kvar volumojn, do kia granda devus esti komentario por japanoj.

Jonekava Masao, kiu tradukis 'Eŭgeno Onegin-on' unuafoje ankoraŭ en 1921, post 40 jaroj skribis: "Bedaŭrinde en fremdaj landoj (ne nur en Japanio, sed ankaŭ en Eŭropo kaj Ameriko), kvankam Puŝkin estas konata kiel mond-fama talento, tamen homoj, kiuj per la tuta koro kaj saĝo perceptus tiun fakton, preskaŭ forestas."

Restas esperi, ke aperinta esperanta traduko de la poemo, almenaŭ en medio de fremdlandaj esperantistoj, donos al legantoj eblon ĝui per fama kreaĵo de eminenta rusa poeto Aleksandr Puŝkin."

Gennadij Ŝlepĉenko

2005年 Serio "Oriento-Okcidento"の1冊として出た、ロシア文学最高の傑作とされる Puŝkin の Eŭgeno Onegin のE. 訳についての文でした。

原文通りの構成で、全編にわたって脚韻を踏んだ詩の形です。上の文にあるように、今までの邦訳より「原文の味わい」を楽しめるもの、と思います。

タイトル: Aleksandr Puŝkin/EŬGENO ONEGIN

Tradukita el la rusa lingvo/Valentin Melnikov

出版所: Kliningrad/Sezonoj/2005

*La Tamtamo: 第 378号(2006 年 4月 A4X 4頁、JER(Jokohama Esperanto-Rondo), 日本語

*VOJO SENLIMA; N-ro 166, Aprilo 2006, 熊本エスペラント会. B5 X 8 頁のうちE.文3頁弱は RAKONTOJ PRI MILITO の連載8回目、朝日新聞の「テーマ談話室戦争」の投書の訳文。

*Eskalo 第 116号(2006 年第 2号)、2006年 4月26日、川崎エスペラント会、B5X4頁、日本文。総会報告の続きとコロベニコフのコンサート報告など。

*第 80回九州エスペラント大会案内 5月20~21日太宰府にて。ソウルエスペラント文化院長 S-ro LEE Jung-kee が出席講演。

*Novajoj Tamtamas:N-ro 210, Aprilo-Majo 2006, JER 発行、全文E. A4X8頁の半分を占める Niaj cirkonstancoj ŝanĝas ĉiam pli はおもしろい。

*第 55回関東エスペラント大会案内 6月3~4日東京都江東区にて。En la amikaj rilatoj inter aziaj landoj が大会テーマ、前 UEA会長 Prof. LEE Chong-Yeong が出席、東アジア3国の近現代史を語る。

*受講生通信 第106号、2006-05-01、沼津エスペラント会、B5X12頁の内E.文合計1頁。「北海道5月合宿」、「北海道大会」の案内。

*Mejlstono 2006 majo N-ro 195, 仙台E会: B5X8頁の内E sp文3頁弱。外国同志歓迎記、集会記録など。

*La Tamtamo: 第 379号(2006 年 5月 A4X 4頁、JER, 日本語。読書会報告は Hispania, Kataluna, Mangada... (Dil Avia=平井征夫, 1944~2002), すばらしい研究、文章を残したが、今としては若い五十代で世を去った。Nia k-do

カワハラもそうだった。わかものよ(= junaj samideanoj!)文を書いておこう

*NOVA VOJO:N-ro 418 majo 2006, EPA (エスペラント普及会)、A5 X32 頁中E文6頁半。藤本達生の「続きもので—」は前号に続いて荒川静香の「切れ長の目—」(=migdalokula)。migdalo は三宅小辞典では「はたんきょう」だが今は「アーモンド」の方がわかる。「切れ長の(吊り上がった、モーコ人のような)」という用例は最新の PIVにはないが英語の辞書にはよくある。

*センター通信: 2006年 6月 5日, 第 247号、名古屋エスペラントセンター、B5X 12頁のうち1頁弱のエスペラント文は Narnio (ナルニア物語: IKAI Yosikazu)

*La Movado;KLEG (関西エスペラント連盟) 発行、N-ro 664 jun. 2006, B5 X 16頁のうちE.文約2頁。「憲法24条のエスペラント訳」(林和男)は、専門家の目で見、従来の訳文を修正したもの。Olda Amkanto (なつかしき愛の歌)の楽譜。「編集ノート」に、

「外国人に読まれることを考え、固有名詞はできるかぎりエスペラント表記を並記、Monato方式にする」とある。

*NOVA VOJO:N-ro 419 junio 2006, EPA (エスペラント普及会)、A5 X32 頁中E文7頁半。世界各地の特派員からの記事、ますます充実している。

*La Movado;KLEG発行、N-ro 665 jun. 2006, B5X 20頁のうちE.文約2頁。

トップ記事(地球民主主義と言語問題/寺島俊穂)は、かつて木村園子さんに指摘された問題(Heroldo de HEL: N-ro 93)を分析してE.運動の役割を評価している。

"homon kun altaj idealoj" - Funebra saluto el Hispanio

「高い理想の人」 - カワハラさんへスペインから弔辞

HOSIDA Acusi

故カワハラ・カズヤさんが PERANTO-DELEGITO をつとめていた IKEK (INTERNACIA KOMUNISTA ESPERANTISTA KOLEKTIVO) の機関誌 (Internaciisto) の編集部 (スペイン) から次の弔辞が来しました。

件名 : Saluton 日時 : 2006 年6 月1 日 18:02

Dankon.

Mi bonorde ricevis vian noton pri la forpaso de nia kamarado Kawahara. Kvankam lastatempe ni ne havis vivsignojn liajn. Mi bone memoras, ke en pasintaj jaroj, li sentis grandan inklinon al nia Kolektivo, kaj li estis nia ĉefa delegito en sia lando.

Tre ofte, li sendis pro publikigo en nia organo Internaciisto, raportojn aŭ informojn pri sia lando, tamen li metis grandan intereson al la tenigo aŭ konduto de la usonaj soldatoj en Japanio.

Mi ankaŭ aperigos noton funebran pri lia forpaso en nian organon Internaciisto.

Karaj, ni rememoru lin, kiel homon kun altaj idealoj, via

-----Luis Serrano Pérez

(要約) 訃報受け取りました。同志カワハラはIKEKに強い関心を持ち、日本の代表委員を勤めました。機関誌への原稿もよく送ってきましたが、日本にいる米軍兵士の行動に注意しておりました。我々の機関誌にも彼の訃報を載せます。「高い理想をもった人」として、一緒に彼を思い出しましょう。 ルイス・セラノ・ペレス

[第4回委員会報告] Protokolo de la 4-a Komitata Kunsido

日時 : 2005年 4月22日18時~

場所 : 札幌市民活動サポートセンター

出席 : 阿部、佐藤英治、佐藤不二雄、椿、後藤、中田、横山、星田

欠席 : Anikejev, 大山口、(川合)、須藤、岩井

議事 :

*新規加盟1名 : 川合由香、委員としてメルマガ編集長に就任予定

*財政 : 会費滞納者を抽出、文書を作成、督促の準備。

*広報 (HP:TTT-ejo) 累計アクセス 49173; SES, TES の行事案内を表示

*メールマガジン (メルマガ)

毎月最終金曜日発行、3\31号は 994部発行。

「よみがえれ、えりもの森」翻訳計画をのせる。

*教育・研究

S E S : 土曜日は Ainaj Jukaroj クラス、Profeto クラス。

入門クラス (Unua legolibro を使用)

Vinberoj は月曜日、5月1日から6人参加の予定。

TES(苦小牧) : 例会は月2回。入門クラスは文通、ことばあそび、中級クラスは VOJAĜO EN ESPERANTO-LANDO を読んでいる。

登別 : Hanako lernas Esperanton, Gerda malaperis! で学習。

EPA: 桑園駅そばの大本札幌センターで会話、自己紹介など練習

*図書部 : 中田宅に段ボール十数箱移した。Ainaj Jukaroj 初版は300円、第2版は700円とする。入門用講習用書のいたんだものは3月末から無料で提供している。JEI の新辞典はまとめて注文すれば割引になるかどうか、検討する。

*機関誌部 : 4月22日 N-ro 107 (120部) 印刷発行した。

*年間計画

・5月合宿 : 前回決定通り実施する。

・北海道大会 : 9月30日~10月1日、かでの2・7 : 具体的計画を検討
アイヌ関係シンポを実施するなら、大野氏に声をかける (横山)

*社会活動・言語民主主義・先住民族 (アイヌ) 連帯

・プラハ宣言エスペラント訳のチェックをアイヌタイムズ編集長 (浜田氏)、
切替氏にお願いしたい。

*次回委員会 : 6月24日 (土) 18時、札幌市民活動サポートセンター

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

*名古屋の三ツ石清さん (93歳) は1月27日、閉塞性動脈硬化症および前立腺症にて入院され、談話は不自由ながら症状は安定して、4月中旬から下記のとこ
ろに移ったとのこと。手紙は読めるそうです。

名古屋市中村区寿町30 老人保健施設 第1 若宮

三ツ石さんは昔から北海道の行事にもよく見えていましたが、最後のは1993年
5月、岩見沢市法然寺の合宿での「エスペラント文学」講義でした。

*『日本エスペラント運動人名事典』の編集者 (柴田巖<leksikono@yahoo.co.jp
>) から依頼が来ました。物故同志について、次のデータを求めています。
生年月日, 没年月日, 出身地 (できれば市町村名まで), 最終学歴 (校名、でき
れば卒業年), 職歴 (職業だけでも結構です), エスペラント歴 (学習の動機、
活動内容など), 執筆作品 (著書に限りません。雑誌、新聞などへの寄稿でも構
いません。また内容もエスペラントに限りません), 参考文献 (追悼文など)

北海道関係では、次の人について、データの不足があるそうです。(敬称略)

吉田栄 : 学歴 / 井上久 : 生年、学歴 / 小熊えいいち : 生年、出身地、学歴 /

山崎久蔵 : 生年、出身地、学歴 / 当摩憲三 : 出身地、学歴 /

江口音吉 : 出身地、学歴

連絡は上記編集者へ。星田 (連絡先は表紙題字のした) も受け付けます。